

○議長（保坂 悟君）

以上で田中議員の質問が終わりました。

ここで、昼食時限のため暫時休憩いたします。

再開を午後１時からといたします。

〈午前１１時５５分 休憩〉

〈午後１時００分 開議〉

○議長（保坂 悟君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

次に、伊藤 麗議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

伊藤議員。〔４番 伊藤 麗君登壇〕

○４番（伊藤 麗君）

糸魚川の未来を魅せる会、伊藤 麗です。

事前に提出いたしました通告書に基づき、１回目の質問をさせていただきます。

１、脱消滅可能性自治体宣言！みんなでつくろう１００年先の未来のあるまち。

消滅可能性自治体とは、２０５０年までに、子供を産む中心になる年齢層の２０歳から３９歳の若年女性人口の減少率が５０％を超えると予想される自治体のことであります。当市もここに含まれております。

各地方自治体からの人口減については、国全体での少子化対策で取り組むべき問題でありましたが、人口戦略会議のレポートによって、自治体間での若年層や子育て人口の奪い合いになってしまったという批判もあります。残念ながら、日本全体の人口減はすぐに止められるものではないため、全ての自治体の人口が増えていくことも期待できませんが、今後、糸魚川市ができることは、ほかの地域との人口の奪い合いではなく、糸魚川の特色や長所を大切にしながら、若年層が子供を産み育てたいと思える環境をつくっていくことではないでしょうか。

各世代間での分断ではなく、市民それぞれが“選択できるくらしとチャレンジを支え合う糸魚川へ”をスローガンに以下伺います。

（１）子育て世代に手を差し伸べるまちについて。

① 無痛分娩に係る費用への助成を検討する考えはあるか伺います。

② ３人目出産祝い金１００万円を検討する考えはあるか伺います。

③ 給食費の無償化を検討する考えはあるか伺います。

④ （仮称）駅北子育て支援複合施設建設に係る東北電力ビルの解体工事が不調のままですが、その対応を来年度に託したのはなぜですか、伺います。

（２）女性や若者が住んで喜びのあふれるまちについて。

① ふるさと納税を財源に、若者の挑戦を応援する（仮）いといがわ版マネーの虎を実施す

る考えはあるか伺います。

- ② 女性就業率県内20市中最下位である原因は何か、分析する考えはあるか伺います。
- ③ 小中学生の声が直接市政に届く市長の学校訪問を実施する考えはあるか伺います。
- ④ 海洋高校相撲部OBの活躍を受けて後援会を行政内に設置する考えはあるか伺います。

(3) 個性や特徴を尊重し、みんなを育む教育のまちについて。

- ① 多様な学び学校設置についての検討の進捗を伺います。
- ② 教育支援センターは、今後も市民図書館内に置くのか、考えを伺います。
- ③ 教育の「質」と「機会の均等」のための学校施設の統合、改修について、考えを伺います。

(4) 頼れる医療と福祉のまちについて。

- ① 入院できる小児科を守る考えはあるか伺います。
- ② 婦人科を守る考えはあるか伺います。
- ③ 救急医療体制について、現時点でどのような運用であるか、今後は維持する考えはあるか伺います。
- ④ 障害者もお年寄りも医療的ケアがかなうグループホームの整備について、考えはあるか伺います。

(5) 環境に配慮した産業と経済先進のまちについて。

- ① ゼロカーボンシティ宣言をする考えはあるか伺います。

(6) 人材育成とDX・組織改革で市民に寄り添う市役所があるまちについて。

- ① 複数課にまたがる課題について横断的に対応する（仮）なんでもやろまい課設置について、考えはあるか伺います。
- ② 老朽化や役割を終えた施設の複合化など、公の施設の適正配置に取り組む（仮）企画経営課設置について、考えはあるか伺います。
- ③ 市民サービスの向上と市役所変革のためのDX推進について、考えはあるか伺います。
- ④ 人材育成にコーチングの手法を導入する考えはあるか伺います。

以上です。

○議長（保坂 悟君）

暫時休憩いたします。

〈午後1時05分 休憩〉

〈午後1時06分 開議〉

○議長（保坂 悟君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

○4番（伊藤 麗君）

失礼いたしました。（5）の質問について、質問が飛びましたので、最初から読み合わせていただきたいと思います。

(5) 環境に配慮した産業と経済先進のまちについて。

- ① ゼロカーボンシティ宣言をする考えはあるか伺います。
- ② 柵口万年雪について、野鳥保護と、アクティビティとしての活用の両立についての可能性を調査する考えはあるか伺います。
- ③ 豊富な水資源を呼び水に企業誘致に取り組む考えはあるか伺います。
- ④ マリンドリーム能生周辺整備計画について、今後の予定について伺います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

伊藤議員のご質問にお答えいたします。

1点目の1つ目につきましては、近隣で無痛分娩ができる医療機関が限られていることから、現時点では考えておりません。

2つ目につきましては、考えておりません。

3つ目につきましては、財源確保が課題であり、無償化は難しいと考えております。引き続き、国に財政措置と無償化を要望してまいります。

4つ目につきましては、入札方式等の見直しを行うこととし、検討に時間を要することから、新年度で対応することとしたものであります。

2点目の1つ目につきましては、調査・研究してまいります。

2つ目につきましては、数値や順位は様々な要因の結果と捉えており、引き続き多様で柔軟な働き方を推進してまいります。

3つ目につきましては、様々な世代から意見を伺うことは大切なことと考えております。

4つ目につきましては、行政主導ではなく、市民総ぐるみで相撲を応援する組織を設立すべく、関係者と協議を進めております。

3点目の1つ目につきましては、6年度に5回の学びの多様化検討委員会を開催し、2月に同委員会から提言書を提出いただいております。

2つ目につきましては、適切な設置場所を今後も検討してまいります。

3つ目につきましては、教育力の向上などの視点から、学校施設の改修や小中学校の適正配置について、引き続き検討してまいります。

4点目の1つ目と2つ目につきましては、安心して子供を産み育てることができる環境を維持していくために、両診療科は必要であると考えております。

3つ目につきましては、現在、市医師会とも協力し、糸魚川総合病院での24時間365日の救急医療体制を維持しており、引き続き体制を確保していく必要があると考えております。

4つ目につきましては、市の障害福祉計画・介護保険事業計画に基づき、整備を進めております。

5点目の1つ目につきましては、市の姿勢を明確にし、市民の理解を深めるため有効な手法であると捉えておりますが、現時点では考えておりません。

2つ目につきましては、権現岳の地形・地質から落石等も多く、活用に当たっては安全性の確保

が重要と考えております。

3つ目につきましては、工業団地の紹介データとして活用いたしております。

4つ目につきましては、計画に沿った施設改修などを行っていく予定であり、関係機関と協議を進めております。

6点目の1つ目につきましては、複数課が関係をする案件は、庁内でその都度検討、対応を行っており、新たな課の設置は考えておりません。

2つ目の公の施設の適正配置につきましては、現在、行政改革で取り組んでおります。

3つ目につきましては、4年度に策定いたしましたDX推進計画により着実に進めてまいります。

4つ目につきましては、様々な研修を取り入れ、人材育成を行っております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

伊藤議員。

○4番（伊藤 麗君）

では、2回目の質問を行ってまいります。

糸魚川市令和7年度当初予算のポイントを確認させていただいたんですけれども、人口減少対策は、当市の最重要課題であり、若者の減少が大きいことから、全ての施策において、若者、特に女性の定着に向けた取組を推進する必要があるというふうにありました。全く同じ思いであります。これまで地方政治に不足していた若者や女性の視点を存分に取り入れ、100年先を見据えたまちづくりの推進が必要です。

（1）子育て世代に手を差し伸べるまちについてなんですけれども、消滅可能性自治体から脱した自治体の例を見てまいりますと、子育て支援に力を入れているところが多いというふうに思っております。こども園の利用料や給食費の無償化、教育環境の整備などに取り組むことで、地元に残りたい若年層の増加や子育て世代の移住が期待できると考えます。享受できるサービスの機会の差の是正、また、子育て世帯の手取りを増やすことにつながるような経済的な支援を行う必要性があると考えております。

①についての1回目のご答弁、近隣にそういう施設がないので考えはないということだったんですけれども、無痛分娩というのは、出産の痛みと不安を和らげるために、麻酔を用いて出産に伴う陣痛を最小限に抑えることを目的とした出産方法であります。1回目の答弁にもありましたように、近隣には、対応できる施設はありませんけれども、新潟市や富山県には無痛分娩を選択できる施設がございます。

無痛分娩は、当然リスクも伴いますが、さきに述べましたメリットに加え、産後の体力の温存になることで、その後の育児にスムーズに移行できるなどの多くのメリットが存在します。市内でも無痛分娩を求めて県外で出産した事例があるというふうに私は聞いているんですけれども、そのようなことは承知されていますでしょうか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

室橋こども課長。〔教育委員会こども課長 室橋淳次君登壇〕

○教育委員会こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

うちの保健師のほうでは、そういった無痛分娩の例については承知していると思っておりますが、今現在、私のほうで手元にそういった資料、何件といったところの資料はございません。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

伊藤議員。

○4番（伊藤 麗君）

市内でも、まだまだ少ないと思います。日本全体で見ても、無痛分娩選択されてる方というのはまだまだ少なく、それがどうしてかと申し上げますと、恐らく今、無痛分娩を選んだ場合、保険適用外の処置になりますので、通常の分娩よりも10万円から20万円ほど分娩の費用が高くなるというふうに一般的に言われております。その費用が高くなるというところが、大きくネックになっているのではないかとというふうに私は思っています。近隣に無痛分娩を選べる施設がないのであれば、新潟市とか、そういう分娩の方法を選びたい方は東京とか、もしかしたら、場合によっては行かれることもあると思います。その費用を全部助成するという方法ももちろんあるとは思いますが、例えばその交通費の部分に支援をするとか、あとは上限幾らまで支援しますよというふうに、上限を決めて分娩費を支援するという新規助成制度を新設することも考えてはどうかと思うんですけれども、再度、お考えをお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

室橋こども課長。〔教育委員会こども課長 室橋淳次君登壇〕

○教育委員会こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

今、市内では、分娩ができる体制というのが一時期できない状況もございましたけれども、今市内でも分娩できる状況というのは整っているというふうには思っております。出産機関を選ばれるのは、それぞれのご判断であろうというふうには思っております。今議員言われるように、そういった部分の助成というのも考えられないことではないとは思っておりますけれども、また今後の研究課題とさせていただければというふうに思います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

伊藤議員。

○4番（伊藤 麗君）

この後の質問でもしていこうと思ってるんですけれども、先日、市民厚生常任委員会の中で、糸魚川総合病院の院長先生とかと意見交換する協議会が開かれておりました。傍聴に行ったんですけれども、その中では、院長先生のお話だと、かなりまた糸魚川市での分娩というのは、存続させるにはかなりハードルがあるなというふうに思っています。そんな中で、また仮に休止したとして、

仮に休止したとしてという話もあんまりよくないんだと思うんですけども、実際、糸魚川市は休止になった経験を一度しております。なので、休止になったときに、また妊婦さんたちが市外の分娩機関を使わざるを得ない、みんながそういうふうにならざるを得ないというふうになったときのために、やっぱりほかの施設を使うことを想定した、なおかつ、また選択肢も広げられるような施策を準備しておく必要があると思うんですが、先日の総務文教常任委員会の中でも、子育て世代に取ったアンケートで、子育てに対する満足度が著しく低下してしまった。それは、分娩が休止した時期と重なっていたので、それが原因ではないかというふうに見ているというふうに課長からお話あったと思うんですけども、それも踏まえて、もう一度聞きたいと思います。いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

室橋こども課長。〔教育委員会こども課長 室橋淳次君登壇〕

○教育委員会こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

市内でしっかり子育てがしていけるように、希望を持てる施策というのを考えていかなければいけないというふうに思っております。様々に、これまでも市のほうでは子ども医療費の完全無償化ですとか、そういったところを取り組んできております。全ての、何ていうんですかね、助成ができるというわけではございませんので、できる助成といったところをしっかりと考えながら対応していきたいというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

伊藤議員。

○4番（伊藤 麗君）

この後の質問もちょっとしばらくそういうのが続くんですが、②について伺います。

令和5年度の出生数のうち、第3子として生まれたお子さんは何名でしょうか。割合でも結構ですので、もしお分かりになれば教えてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

室橋こども課長。〔教育委員会こども課長 室橋淳次君登壇〕

○教育委員会こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

令和5年度中にお生まれになったお子さんは135人でありますけれども、そのうち第3子として生まれたお子さんについては24人であります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

伊藤議員。

○4番（伊藤 麗君）

24人ということでした。24人に、仮に100万円支給したとしたら2,400万円だと思うんですけども、今回、緊急の財政支援で糸魚川総合病院に4,000万円、糸魚川市から支出することになっていると思うんですけども、それができるのであれば、2,400万円の捻出というのも、ほかの支出の見直しというのは必要になるかもしれないんですけども、できない金額、数字ではないというふうに思うんですが、その辺りお考え、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

室橋こども課長。〔教育委員会こども課長 室橋淳次君登壇〕

○教育委員会こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

支援の形は様々に考えられるというふうに思っております。子育ての支援としましては、昨年度、昨年度ではありませんね、昨年10月分から児童手当のほうで第3子に対して加算というのがされております。こちらにつきましては、今まで第3子、3歳未満ですと1万5,000円、月1万5,000円だったものが3万円ということで、月額1万5,000円増額しております。これは年間にしますと18万円、それが18歳、高校生年代までということになりますので、その18年間にわたってということになるんですが、300万円以上の子育てに関する加算といいますか、そういったものが国レベルで実施されているといった状況もございますので、またそういった部分も踏まえながら、市としてできる支援というのは検討していく必要があると思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

伊藤議員。

○4番（伊藤 麗君）

課長おっしゃるとおり、いろいろな支援の方法があると思います。私もそう思います。例えばなんですけれども、この100万円全てを現金で支給するのか、単なる貯蓄となってしまうように子育てとか、子育てに関わる用品の購入に必ず使われるような形、例えば商品券とか、あと糸魚川市では、さんさん子育てサポート事業というのをやっていると思うんですけども、この協賛店での買物に、例えばですけど、7歳まで使える商品券というふうにして、7年間で100万円使ってもらうような工夫をするというのもいいと思いますし、あと、それ以外なんですけど、こども商品券といって全国の加盟店で使える商品券、ご存じでいらっしゃるでしょうか。これを、例えば自治体で導入する方法というのもあると思います。子供用品や育児サービスに特化して、全国で使えるので、子育てのために親御さんが使っていただく。7歳までと私が言ったのは、小学校入学するタイミングで、また出費があると想定されるので、そのときにちょっと助けになるような制度設計にしてはどうかというふうに思いました。さっきのお答えいただいた児童手当、年間18万円が18年間というような考え方に似てると思うですね。それを子育て世代に、子育て世代を応援してるんだよというのメッセージ性と一緒にプレゼントできるとすごくいいのではないかなというふうに考えています。

給食費に関しては、1回目のご答弁でかなりハードルが高いというのは、こちらでも理解してるんですけども、以前も聞いたことがあると思うんですが、現状、保育園、幼稚園、義務教育課程の

給食費を全て無償化した場合、必要な予算の総額というのは幾らになるんでしょうか、教えてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

室橋こども課長。〔教育委員会こども課長 室橋淳次君登壇〕

○教育委員会こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

申し訳ございません。幼稚園・保育園の部分まではちょっと手元に今資料がないんですけれども、小中学校の関係で給食費を無償化したとしますと約1億5,000万円ぐらいは、毎年、費用としてかかっていくのではないかなというふうに思っております。

また、今国の動向で、つい先日ですかね、新聞報道では、国のほうで、小学校のほうからまず、2026年度の制度化を目指すといったような動きも出てきているようですので、そういったところも注視しながら対応は検討していきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

伊藤議員。

○4番（伊藤 麗君）

今また物価も高騰していて、給食費も高騰しているような動向だと思いますので、今教えていただいた1億5,000万円、すごく大きな金額だと思います。国からの支援を待つというのも一つだと思いますし、糸魚川市独自として、例えば中学校から段階的にとか、そういうふうを実施しているほかの自治体もございますので、ほかの自治体の取組も参考にしながら検討いただければと思います。

④駅北子育て支援複合施設に関して、聞きたいと思います。

先日の総務文教常任委員会の中で、また東北電力ビルの解体の入札が不調だったという報告とともに、サービスの提供期間がまた遅くなる見込みだというような報告を受けました。これについて、春以降にビルの解体については協議をしていくというようなお話だったんですけれども、現状、想定している国の補助金はどうなっていくのかとか、本当にこの計画は進んでいくのかというところが、今現状、市民としては見えないというのが率直なところだと思うんですけれども、これ、進んでいくんでしょうか、進めていくおつもりなんでしょうか。仮に協議をし直すというふうになれば、見直すというかね、中止するというふうになったときにどのような費用がかかってくるのか、市民もそこは気にしているところだと思うんですが、現状の見込みを教えてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

室橋こども課長。〔教育委員会こども課長 室橋淳次君登壇〕

○教育委員会こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

先日の総務文教常任委員会で、議員、今おっしゃるようなご説明をさせていただきました。国との交付金の関係の協議ということで、今後の対応ということでお話ししておりましたが、そちらの

交付金のほうについては、一定程度めどが今立っている状態かなというふうには認識しております。正式な事務手続等はこの後というような形になりますけれども、そのような方向で今現在進んでいるということでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

伊藤議員。

○4番（伊藤 麗君）

交付金のほうは、めどが立ってきたということなんですね。これなんですけれども、私は議員になる前から駅北子育て支援複合施設ができるというような、うわさだったのかな、今思えば、聞いていました。そして、楽しみにしていた立場でもあります。4年間この議論に関わってきたんですけれども、例えば最初の議員になりたての頃は、もっと駐車場が広い場所がいいのではないかとか、外で遊べるスペースがあるような施設が理想的なんではないかというような提言・意見を申し上げてきました。有利な財源が使えるこの予定地でなければ難しいというお答えであったりだとか、私が議員になる前の議会からの議論の積み重ねもあるというような認識もありましたので、納得をして応援をさせていただいておりました。計画の大枠が示されてから、市民の皆さんからも整備費用が大き過ぎるだとか、室内遊戯施設の機能だけにダウンサイジングしてはどうかという提案を私自身もしてまいりましたが、議会として統一した、そういう意見や提言にまでつながらなかった経過があるというふうにも捉えています、自分自身。

ただ、今回、建設予定地のビルの解体工事が進まないということで、サービスの供用開始時期がさらに遅れるというようなことを説明されたときに、やっぱり子育て支援複合施設の中の室内遊戯施設、屋内遊戯施設を待ち望んでいる市民にとっては、また待ってくださいというような説明をすることになるなというふうに感じています。私としては、もうほかの場所に室内遊戯スペースの整備を進めるべきではないかというふうに思うんですが、それについては、お考えはいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

室橋こども課長。〔教育委員会こども課長 室橋淳次君登壇〕

○教育委員会こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

駅北の子育て支援複合施設につきましては、本当に今委員おっしゃられたとおり、大火の後に様々な検討を踏まえて今の状態になってきていると。施設規模も含めて、子供の遊戯場だけではなく図書スペース、またギャラリースペース等も加えた形での今の形になったというふうに思っております。また、財源があるといったところも非常に大きい部分であると思っております、それがなければやはりなかなか施設整備は難しいといったところもございますので、そういったところも踏まえて今の計画が進められていると認識しております。

施設の供用開始がちょっと遅れるような形になっているのは大変申し訳なく思っておりますが、私ども担当課といたしましても、なるべく早期に供用開始ができるように今後も対応してまいりたい

いと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

伊藤議員。

○4番（伊藤 麗君）

子育て世代の皆さんからすれば、令和11年4月供用開始の予定になったんではしたよね。今年、赤ちゃんが生まれた人が、その赤ちゃんが4歳とかになるのか、今、4歳とかの子は8歳なるわけなんですけれども、今ある既存の施設に、例えば人工芝を引くとか、寒い季節はもうダウンジャケットを着たまんまでも子供をそこに連れていけて、例えばボールを転がせば、ボールを蹴って遊べるような整備ぐらいだったらできるんじゃないかなって思うんですけど、どうでしょう。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

室橋こども課長。〔教育委員会こども課長 室橋淳次君登壇〕

○教育委員会こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

そういった部分の、今現在お困りの子育て世代に対してということで、ずっとの期間ではないんですけれども、「アソビバ」という形で、今も、この20日からこの土日の間に青海総合福祉会館のほうで開設させていただいておりますが、そういった形で年間、一定期間に少しずつということなので、ずっと継続した形で提供はできておりませんが、そのような形で今対応させていただいております。供用開始になるまでの間は、しばらくそういったことを続けさせていただきまして、また、そういった部分も拡充できないかというところは検討していきたいというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

伊藤議員。

○4番（伊藤 麗君）

常設の施設が求められてると思っています。もう屋根のある公園みたいな感じのところでも十分だと思うんですよね。休み期間中ずっと「アソビバ」開催してるわけじゃないじゃないですか。なので、そういう施設整備を今急ぐべきなんじゃないかなというふうに思います。

私の考えで、ここはとどめさせていただきたいと思います。

（2）女性や若者が住んで喜びのあふれるまちについての質問に移らせていただきます。

女性や若者、まだ選挙権のない子供たちからも直接声を聞くことができる機会づくりと、さらには、なりたい職業、就きたい職場が糸魚川にないという人が、ここでそれをつくればいいという考えで挑戦を応援する体制の整備をしたいと考えております。

①の質問についてです。一度目の答弁では、調査・研究する、考えはないというご答弁ではなくて調査・研究をするということは前向きなのかなというふうに感じたんですが、課長のお考え、お

聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

中村企画定住課長。〔企画定住課長 中村淳一君登壇〕

○企画定住課長（中村淳一君）

お答えいたします。

議員からのご質問の中で、仮というようなことで、過去にやっていたテレビ番組の題名かと思いますが、その具体的なところを、たしかプレゼンをして、それを審査して、その審査がすばらしいものであれば、何らか支援をしていくという形かと思っておりますけれども、それを市民の団体に支援をするという形を取るのか、市の事業として行うのかといった点であったりによっても、また事業の組み立て方、ふるさと納税の寄附の募り方変わってまいりますので、改めましてになりますが、そういったところも、また細かいところをまた教えていただければと思いますけれども、調査・研究していきたいということでは考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

伊藤議員。

○4番（伊藤 麗君）

制度設計については、いろんな方法が考えられると私も思っています。例えばですけれども、佐渡市では、佐渡市と創業・企業誘致支援団体「NEXT佐渡」の取組をパッケージ化し、これを提供するチャレンジャーを広く全国から求めるコンテストというのが、以前、実施されたそうです。地域活性化や経済活性化につながる新事業の創出、創業支援、地方ならではの新たなビジネスの発掘や起業支援、企業活動の促進につながると考えています。

虎は、私が考えてるのは、虎という審査委員というかね、お金を出す側だと思うんですけれども、虎は、市長を含めた理事者と市内金融関係者、市内企業経営者、交えても面白いんじゃないかなというふうに思っています。例えば市民じゃないとチャレンジできないとかではなくて、市外に在住している若者でもチャレンジできて、ただ、その事業の実施場所は、糸魚川市内でなければいけないとか、そういうのでも面白いんじゃないかなというふうに思ってます。いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

中村企画定住課長。〔企画定住課長 中村淳一君登壇〕

○企画定住課長（中村淳一君）

ご提言ありがとうございます。そういったところも、またもう少しちょっと細かくといいますか、踏み込んで研究はしてみたいと思っておりますが、1点、議員のご提案の中に、やはり若者が事業を行うという点がありましたので、私の中でちょっと考えていますのは、どちらかというと審査も若者がするという視点もあってはいいんじゃないかなと。例えばなんですけれども、今現在、ワカチカの補助金なども市内の課長から審査をしていただいておりますけれども、そういったところにも若い視点を入れられないかということも検討かなというふうに最近思っておりますので、また、参考にさせていただきながら研究をしていきたいというふうに思ってます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

伊藤議員。

○4番（伊藤 麗君）

非常に前向きに、一緒に考えていただいて、ありがとうございます。すごくいいと思います。審査も若者がする。若者も審査員の1人として加わる、すごくいいと思います。そういう形で、何かわくわくするような取組というか、施策も展開していけるといいのではないかなというふうに思っています。

ちょっと②と③飛ばさせていただいて、④について、こちら1回目の回答は、協議を進めているというような回答だったかな。これについて、私、すいません、よく分からないんですけども、去年の大のりのラッピング電車の企画があったと思うんですけども、その辺りから、何か後援会をつくろうみたいな機運になってるというようにお聞きしたんですが、今どの担当課が所管していて、どういう進捗なのかというのをちょっと、すいません、存じ上げていないもので、逆にちょっと教えていただきたいんですが、どんな状況、どんなものを想定して、今、計画が進んでいるのか教えてください。すいません。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

磯貝生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 磯貝恭子君登壇〕

○教育委員会生涯学習課長（磯貝恭子君）

お答えします。

伊藤議員言われるように、ラッピング車両、また大のりの活躍で市民の相撲の機運というのが非常に高まっていて、何か応援する組織が欲しいというのが、昨年ぐらいから声が上がってまいります。そちらを受けまして、今、相撲関係者だけでなく企業や商工関係、観光関係、また金融業とか、そういう広い分野の関わりで、市民全体で応援するような組織で、そういうものをつくっていきたいというご意見でして、今、まず関係の団体の長の方が集まっておきまして、発起人会ということでの設立を目指して話し合いを始めているというところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

伊藤議員。

○4番（伊藤 麗君）

すごくいいと思います。市民全体で、この機運を盛り上げていこうというのは、すごくいいと思います。発起人会が、今立ち上がったところということで、そうすると、私、今これ、何ていうんでしょうね、後援会みたいなイメージでいたんですが、どんなものが、この発起人の方たちによって生み出される予定なんでしょうか。すいません、本当にあんまり分かっていなくて、教えていただきたいんですけど。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

磯貝生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 磯貝恭子君登壇〕

○教育委員会生涯学習課長（磯貝恭子君）

お答えします。

市民総ぐるみということで、市長も答弁ありましたけれども、それを今、発起人会の中でどういう形で、どういう事業をすればいいかというのを、これから話し合って、みんなで決めていくというところですので、まだこういう形であるとかこういう事業をやるというところは、決まったものではございません。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

補足して、お答えさせていただきます。

今、市民総ぐるみで応援していく組織をつくろうというところで、皆さん集まっております。今現在、法人格を持った相撲を応援していく組織もございますし、また、先行して、能生の海洋高校の出身者の力士を応援していこうという団体もあるんですが、その方々も一緒に、みんな取り込んだ中で一体となって進めていこうという形でありまして、いろんな関係から法人格を持った組織をつくって、広く皆さんにお呼びかけをしていこうと。そして、いろんな中において支援をしていくんですが、その中でもう一つ外してはいけないのは、青少年の育成というところも一緒に進めていけばいいんじゃないかということで、今まとまりつつあります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

伊藤議員。

○4番（伊藤 麗君）

そうですね、それぞれの団体ができてきているのは、私も承知しています。

私も先日、実は生まれて初めて国技館で相撲を見させていただきました。国技であり、本当にそこに、海洋高校で学んだ人たちが活躍をしているというのを見て、本当に感動して帰ってきました。市民の皆さんが、やっぱり喜んで応援しているというのは、すごくいい今タイミングだと思うんですよね。その中で、今こういう計画があるというふうにお聞きしたもので、今どのような進捗なのかというのを確認させていただきました。今、市長おっしゃられたように、青少年の育成、今活躍をされている力士の皆さんだけではなくて、実際に今、能生で生活されている学生も一生懸命、相撲でお稽古していらっしゃる。そういう人たちも含めて、みんなで応援していくという機運を、本当に市民全体で高めていけたらいいなというふうに私も思っております。この会がどういうふうになっていくのか楽しみにさせていただいております。

（３）について、聞いていきたいと思います。

全国的な社会問題となっている不登校児童数の増加ですけれども、当市においても他人事ではございません。既に不登校となっている児童、ご家族には、それぞれのご意向に沿って、寄り添って支援が必要だというふうに考えております。

①についてです。2月に検討委員会っておっしゃいましたかね、から提言書を頂いているというようにご回答だったんですけども、どのような内容が提言されたのか、今後どのように進んでいくのか教えてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

古川こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 古川勝哉君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（古川勝哉君）

検討委員会の提言としては、子供の気持ち、実態を踏まえた、子供たちが行きたくなる学校づくりをしてほしいという提言がされました。

具体的には大きく3つ、学びの多様化学校を分校型として設置するということです。

ただ、糸魚川市広いですから、能生地区、それから青海地区にもサテライトとして子供が通いやすいような場を設置するということ。

2つ目、現在のヒスイルームを不登校対応センターとして、子供、学校、保護者、関係機関をつなぐコーディネーター役としての機能を持たせるということ。

3つ目として、教育課程は、いわゆる座学だけではなくて、様々な人や自然と触れ合う、関わる活動を多くして、子供たちの自己肯定感を高めていくということが提言として、出されました。

また、課題も幾つかいただいております。その課題を来年度、庁内で学校のあり方検討委員会を設置し、学びの多様化学校設置に向けて協議を重ねていくということになります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

伊藤議員。

○4番（伊藤 麗君）

そうすると、来年度以降も学校のあり方検討が続いていくということなんではないでしょうか。今、課題が幾つかあったというふうにお話しいただいたんですが、その課題を教えていただいてもいいですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

古川こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 古川勝哉君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（古川勝哉君）

検討委員会から出された課題は、まず、設置方法。設置方法というのは、学校型、分校型、分教室型というようなものが大きく国で示されておりますので、そのいずれかの設置方法を取るということ、どの方法がいいかということを検討していくということです。あと設置場所、それから通学方法、それから、特別な教育課程が許されておりますので、その教育課程の内容を具体的にどのような教育課程にしていくかということが大きな課題として、検討委員会のほうから示されました。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

伊藤議員。

○4番（伊藤 麗君）

今のお話だと、まだまだ検討すること、協議することが多いんだというふうに理解しました。
その中で、来年度以降もこれについて協議を続けられるということなんですが、実際に実働するにはどのくらいの時間が必要と見込まれているのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

鶴本教育長。〔教育長 鶴本修一君登壇〕

○教育長（鶴本修一君）

課題が結構あります。重要な課題もたくさんありますので、その重大な課題をどのようにクリアしていくかという部分についても、これは文部科学省の指導、あるいは助言等を受けながら、その中身を精査し、熟議を重ねていく中で、糸魚川にとってベストな在り方というふうな部分のところが、だんだん、だんだん狭まっていくというふうに思ってます。要するに整理されていくというふうに思ってます。その関係で、熟議を重ねていく過程の中で、やっぱり国との動き、連携みたいなものも十分関わってきますので、スピード感を上げたとしても、やっぱり時間を要するというような部分については、皆、覚悟しておかなきゃいけないというふうに思ってます。

したがいまして、いつに開校とか、どのような形でとかということについては、今現在、ちょっとまだ不確定な部分がたくさんありますので、私のほうからの発言については控えさせていただきたいなと思ってます。とにかく、今まで取り組んできた内容のものが、提言書でまとめられていますので、それに基づいて1つずつの課題について、関係者で熟議をし、学識経験者からも指導を受け、文部科学省からもその内容を見ていただきながら、助言を受けながら、実現に向けて進んでいく、そういうスタンスです。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

伊藤議員。

○4番（伊藤 麗君）

熟議を重ねて、大切な問題なのでということで、教育長のお考えとか気持ちというのは十分理解をしているつもりです。

ただ、この後の質問にも続いていく予定だったんですけども、教育の質と機会の均等のための学校施設の統合・改修についてだとか、市内でも老朽化が進んでいる校舎の学校もありますし、後は生徒数、児童数の減少によって、これ、あと何年この学校がここに、この地域にあり続けるのかという状況の学校も多くあります。その中で多様な学び方の検討というのは、やっぱり同じようにスピード感を持って対応していかなければいけない課題だというふうに思ってるんですが、それを加味した上で、その上で、やっぱりもう少しスピードアップする必要があるんじゃないかなというふうに思うんですが、もし教育長の立場からだと難しければ、市長からも何かお考えをお聞き教えてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

児童数が減少しておる中において、そしてまた、施設の老朽化ということも考えたりいたしますと、やはりその問題、さらにはいろんな観点から、スピードを持って進めていかななくてはならないと捉えています。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

伊藤議員。

○4番（伊藤 麗君）

今日、いろいろと質問したいことをたくさん上げさせていただいたんですが、できる限りの範囲で質問を続けていきたいと思っています。

今お話あった学校施設の件もそうですし、あとは、例えばこの後から続いてくるマリンドリーム能生周辺整備計画にも関わってくるんですけども、学校のプール、施設の老朽化に伴って、修繕が行われていないプールを持つ学校の児童生徒の皆さんもいらっしゃいます。その中で、マリンドリームにあるB＆Gプールを授業で使っている学校もあったわけなんですけれども、今、マリンドリームのB＆Gプールも老朽化が進んでいます。今、暫定的に屋根を取った状態で存在していますし、利用もできる状態だとは思ってるんですけども、そういう施設があると。マリンドリーム周辺整備計画に関わってくると思うんですけども、スパーク能生という、皆さんゲートボール楽しんでいらっしゃる施設も屋根にね、雨漏りがひどくてというようなお話を聞いています。なので、移転するのか、それを修繕するのかということも方向性が見いだせてない状態だと思うんですが、本当にいろんなことに関わってきて、すごく大きな課題だと思うんですね。担当課を、じゃ、どこが主導していくのかというところの整理が必要なかなとも思うんですけども、現状、そういうもう全体的な施設の老朽化だとかというのは、先ほど答弁いただいたものによると、行政改革で取り組んでいるというご答弁だったんですけども、どうなんでしょう、どこがリーダーシップを取って進めていくんでしょう。市長だということになるかもしれませんが、担当課だとすれば、もしかしたら企画定住課なのかもしれませんが、どういう担当課が引っ張って、全部の施設を見て、指導していくのかというところを率直に聞きたいんですが、どう思われていらっしゃるんでしょうか、教えてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

マリンドリームとやはりこの周辺というのは、今非常に道の駅として活性化を図っていただいております。そして、今ある施設も老朽化していることも事実であります。それをやはり拡大しなくてはならないわけではありますが、限られた面積の中で、なかなか今の機能が発揮できてないところを考えると、やはりもう少し弁天岩、その周辺を含む、非常にトータル的なやはり感覚の中では、広範囲な、その範囲の中で捉えていかなくちやいけないんじゃないかなと思っており

ます。それによって、どのような形で中心に捉えていくのか。そして、そういった中で新たな考え方も織り交ぜながら進めなきゃいけないんだろうと思っていますので、1つの課、1つのポジションで決定するというのはなかなかできないんじゃないかなと。広範囲の中で進めていく中で、それが絞られて、また、各担当が決まってくるものと捉えてますので、当面は、開発計画みたいな中で絞り込んでいかなくちゃいけないんじゃないかなと。そしてまた、当然財源もついて回るわけでございますので、その辺も視野に入れながら、まとめていかなくちゃいけないんじゃないかなと思っています。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

伊藤議員。

○4番（伊藤 麗君）

私は、あらゆる努力・工夫で、糸魚川に暮らす皆さんが必要とする行政サービスを届けていきたいというふうに思っています。

以上で、私、伊藤 麗の最後の一般質問を終わります。

○議長（保坂 悟君）

以上で、伊藤議員の質問が終わりました。

ここで暫時休憩いたします。

再開を2時5分といたします。

〈午後1時54分 休憩〉

〈午後2時05分 開議〉

○議長（保坂 悟君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

次に、加藤康太郎議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

加藤議員。〔8番 加藤康太郎君登壇〕

○8番（加藤康太郎君）

みらい創造クラブの加藤康太郎です。

発言通告書に基づき、一般質問をさせていただきます。

1、人口減少が進む地方公共団体における「官民連携」（PPP／PFI）と「官民対話」の推進について。

近年、施設・設備の老朽化に伴うインフラ整備や、産業振興といった従来の行政の役割に加えて、大規模災害の発生に伴う防災対応（耐震化）の強化、人口減少、少子高齢化への対応など、社会情勢の変化に応じて多く業務が発生している一方で、地方公共団体の職員数の削減、高齢化（技術系職員の採用難）等といった、事業を持続するために解決すべき多くの課題に直面しています。